

会 報

平成16年度第4回日本公衆衛生学会 理事会議事要旨

1. 日 時 平成17年 1月18日(火)13:30~16:30
2. 場 所 東京厚生年金会館
3. 出席者 理事長 多田羅浩三
 学会長 岸 玲子
 前学会長 多田 學
 理 事 入山文郎 阿彦忠之
 遠藤 明 大井田隆
 角野文彦 金川克子
 小林廉毅 近藤健文
 實成文彦 澁谷いづみ
 嶋本 喬 中川秀昭
 中原俊隆 藤田利治
 松田 朗 三角順一
 村嶋幸代 (19名)
 監 事 能勢隆之 宮武光吉 (2名)
 委任状提出者
 副会長 飯塚弘志 太田 博
 宮田睦彦
 理 事 相澤好治 佐藤 洋
 篠崎英夫 新庄文明
 瀬上清貴 伊達ちぐさ
 納谷敦夫

現在理事数29人,出席者19人,委任状提出者10人
 学会規定第13条第1項による定数に達している
 ことを確認の後,多田羅浩三理事長が議長となり
 開会を宣した。議事に先立ち多田羅理事長から
 挨拶があった。

議事録署名人の選出

議事録署名人に,近藤健文 澁谷いづみ両理事
 が指名された。

議 事

第1号議案 第63回(平成16年度)日本公衆衛生 学会総会について

多田 學前学会長から,第63回日本公衆衛生学
 会総会について資料により説明があった。

1. 参加者は3,325人,一般演題数は1,432件
 で,特別講演,シンポジウム,教育講演,奨
 励賞受賞者講演はそれぞれ特徴のある講演が
 でき,特に特別講演1は市民公開講座という

こともあり補助席を用意するほど盛況だった。

2. 1つの自由集会で講演を受けると指導士の
 資格を与えるというものがあり,内容を確
 認し許可した。
3. 参加者の喫煙のアンケート調査は2,000件
 集計でき,喫煙率は低いことがわかった。
4. 評議員会で提案があり新潟中越地震にか
 かる災害見舞金の募金箱を設け,420,423円
 の見舞金を集めることで,新潟県に渡すこ
 とができた。
5. 決算報告については,学会機関誌へ掲載す
 る。

以上により,本議案は了承された。

第2号議案 第64回(平成17年度)日本公衆衛生 学会総会について

岸 玲子学会長から機関誌に掲載する総会のお
 知らせの資料とタイムスケジュール表に基づき,
 検討中のものも含めて具体的な説明があった。

従来一般演題は18分科会だが,「人権と公衆衛
 生」を加えること,分科会名と内容分類の変更に
 ついて説明があり,検討の結果2号掲載のお知
 らせのとおりとした。

以上により,本議案を了承することとした。

第3号議案 第65回(平成18年度)日本公衆衛生 学会総会について

鏡森定信次期学会長が欠席のため,中川秀昭理
 事から第65回日本公衆衛生学会総会(富山)につ
 いて,2月に事務局が発足する予定であり,会期
 は平成18年10月25日から27日,会場は国際会議場
 及び県民会館とする旨説明があった。

以上により,本議案は了承された。

第4号議案 第66回(平成19年度)日本公衆衛生 学会総会について

多田羅理事長から第66回(平成19年度)日本公
 衆衛生学会総会学会長候補の選定について検討を
 進めているが,まだ,候補者決定に至っていない
 との報告があり,引き続き次回理事会までに理事
 長,庶務担当理事で検討することとした。

以上により,本議案は了承された。

第5号議案 第12回役員選挙について

岸 玲子選挙管理委員長から昨年12月11日に開
 催した第1回選挙管理委員会について説明があ
 った。

役員選挙に関する規定に従い,選挙管理委員の

互選により、選挙管理委員長は岸学会長が選出された。選挙日程は、評議員会に報告したとおりの日程で行う。選挙登録はホームページからも出来るようになった。次回委員会は3月30日に開催予定。

以上により、本議案は了承された。

第6号議案 奨励賞について

岸委員長から資料に基づき、平成17年度の奨励賞について説明があった。

選考委員は、例年の委員構成にもとづき、委員長は岸学会長、委員は鏡森次期学会長、瀬上清貴理事、相澤好治理事、澁谷いづみ理事、近藤健文理事、大井田隆理事にお願いしたい旨提案があった。

また、受賞者を5名以内とし副賞を30万円とすること、今年は学会総会が1ヶ月早まるため、6月初めに委員会を開催し、持ちまわり理事会で承認を受けることの提案があり、検討の結果、本議案は了承された。

第7号議案 その他

近藤理事から、学会総会時における教育講演等に対する助成について説明があり、検討の結果、教育機能強化の観点から、総会時の教育講演については学会長からの申請に基付き上限50万円とし補助すること、また、会計処理として研修費の項目をたて、委員会が開催するフォーラムなどの費用も研修費から支出するようにすることとした。

遠藤理事から、平成16年度決算見込みから前年度の繰越を合わせるとかなりの金額が普通預金に残るので、財政積立預金に2,000万円を入れること。事務局で必要なデータプロジェクターの購入、WEB上の学会抄録のデータベースのデータ作りについての説明があった。また、平成17年度事務委託費について、日本公衆衛生協会からこれまで算定してこなかった協会事務職員の人件費を上乗せした形で委託してもらいたい旨要望があり、慎重に審議した結果、本議案は了承された。

報告事項

1. 委員会報告

1) 編集委員会

小林廉毅担当理事から以下の説明があり、了承された。

(1) 51巻11号として英文誌を発行した。10編掲載されており内容は多岐にわたっている。公衛誌としての特徴は出せた。

(2) 日本公衆衛生雑誌の論文は採択後著者全員からの同意書をもろうこと、及び研究論文の補助を受けたファンドの公開について、投稿規程の変更を検討している。

(3) 医学中央雑誌刊行会の抄録の利用許諾および学術著作権協会の複写許諾権利委託契約を行う。

2) 公衆衛生研修委員会

大井田隆委員長からアンケート調査について報告があった。

回答数が非常に少ないことから、再度評議員に封書でアンケート調査することとした。

3) 地域保健委員会

阿彦忠之委員長から以下のような説明があり、了承された。

(1) 医学書院の公衆衛生68巻12号に学会のこれまでの喫煙対策の取り組みを掲載した。

(2) 本日午前中に第4回地域保健委員会を開催し、総会時の虐待のフォーラムについて検討した。昨年の松江の教育講演と重ならないように内容の方向性について検討することとし、演者5名は2月中に決めて4月の理事会に出したい。

4) 感染症対策委員会

角野委員長から第5回、第6回委員会の報告があった。第5回委員会は報告のとおり。第6回委員会では総会時のフォーラムについて検討し、HIVに対する関心が薄れ予算が減少している中、患者数が確実に増加していること、また、青少年に対する性教育が後退していることの2つをテーマに議論し、今後委員会としての結論を出せるようにしたい。報告書については任期中に出したい。

5) 公衆衛生看護のあり方に関する検討委員会
金川克子委員長から以下のような報告がありました。

(1) 1月7日開催の委員会については別紙のとおり。

(2) 10月28日開催のフォーラムについては好意的なアンケート結果であった。これを基に4月に保健師教育について必要なコアカリキュラムについてのワークショップを開催したい。

6) IT化検討委員会

中川秀昭委員長から名簿発行の遅れと最近のホームページの利用状況について報告があった。

2. その他

1) 多田羅理事長から、来年度の名誉会員の候補者について、5月末までに広く推薦してほしいとの依頼があった。

2) 近藤理事から、理事長が1月22日開催のビル管理教育センター環境衛生管理全国大会式典に出席し、祝辞を述べる旨報告があった。

3) 近藤理事から前理事長の重松峻夫先生がご逝去され、昨年12月18日にご葬儀あり、学会を代表して理事長の弔辞を述べた旨報告があった。

4) 次回理事会は、4月19日(火)13時半から東京厚生年金会館において開催する。

以上で議事を終了し、多田羅理事長が閉会を宣した。

平成16年度第5回感染症対策委員会報告

日時 平成16年11月12日(金)16時半から18時半

場所 財日本公衆衛生協会3階 会議室

出席者 角野文彦(委員長)、吉田英樹、多田羅浩三(理事長)

ゲスト 渡會睦子(山形県保健医療大学)

欠席者 阿彦忠之、新庄文明、砂川富正、瀬上清貴、丹野嵯喜子、藤田利治、吉澤浩司

山形県保健医療大学の渡會睦子氏による、青少年の性の実態とPNY (Peer Network Yamagata)のこれまでの取組についての講演。

次回委員会 1月17日(月)17時から

平成16年度第7回公衆衛生看護のあり方に関する検討委員会議事要旨

日時 平成17年1月7日(金)13時半から16時

場所 日本公衆衛生協会3階 会議室

出席者 金川克子(委員長)、角野文彦、實成文彦

欠席者 大井田隆、伊達ちぐさ、村嶋幸代、多田羅浩三(理事長)

1. フォーラムについてのまとめ

金川委員長から10月28日開催のフォーラムについて、アンケートの集計をもとに説明があった。フォーラムについては参加者からは、概ね好評との感触を得た。他の委員からは、いろいろな立場の人が意見を述べたことはよかったが、焦点がぼけた印象もうけた、出席者の中に現場の人が少ない等の意見がだされた。

2. 今後の活動について

委員長から、10月のフォーラムの結果を受けて、保健師にどのような教育をしていったらよいのか、じっくり時間をかけたワークショップを開催したい旨提案があり検討した。

保健師の修士課程の教育、専門大学院での保健師の位置、市町村保健師として必要なカリキュラム、保健所保健師として必要なカリキュラム、また、看護協会がすすめる専門看護師等、保健師教育を取り巻く環境はさまざまである。今回は大学院教育をさておき、保健師教育に必要なコア・カリキュラムについてワークショップを行うこととした。この結果を基に、64回総会の自由集会またはフォーラムを開催することとする。

具体的な日程等は、実行委員会のメンバーで計画を立てることとした。